

## 高齢者や障がい者の自立を助け、介護者の介護負担を軽減

介護現場で一番の課題は、ベッドから車椅子、車椅子からトイレなどへの移乗介護で、腰を浮かして回転しながらの移乗の際に転倒事故が多く、介護者も抱きかかえて腰痛を引き起こし、介護離職の大きな原因となっている。ロボット開発技術を活かして、どこでも使える安全・簡単な移乗・移動方法の開発を目的とした。



九州大学病院リハビリテーション部  
高杉紳一郎准教授（開発当時）

介護現場で一番の問題は、「ベッドから車いすへの乗り移り」ロボット技術でなんとか解決できないか？



テムザック代表取締役高本陽一

車いすの座面がベッドに合わせて来れば、直線スライド移動で簡単安全に乗り移りできるはず！  
ロボット技術で座面や車体を移乗に合わせて制御すれば、使いやすいものが出る。

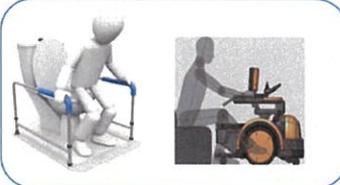


「馬乗り型電動車椅子」としてJISの安全基準検討中

RODEMは前かがみの作業が楽！  
洗顔や調理がしやすくなり、生活行動範囲が広がる。



トイレに行きたい時にいつでも  
介護者に頼らず自分で



**RODEM**  
Robotic Activechair



車椅子ではなく、「アクティブチェア」という新しい製品概念です。

そのままテーブルで食事が楽しめる！



シート位置が高くなるので健常者と同じ視線で会話が楽しめる



高価な移乗アシスト装置なくても **RODEM** が自立した移乗・移動生活を可能に！  
Robotic Activechair

人に出来ないことや人にとって危険な作業を可能にする「働くロボット」の開発に注力



株式会社テムザック [www.tmsuk.co.jp](http://www.tmsuk.co.jp)

本社:福岡県宗像市、中央研究所:京都市、関東本部:横浜市